年間授業計画　新様式例

高等学校 令和５年度（１学年用） 教科　芸術科　　科目 書道Ⅰ

教　科：芸術科　　科　目：書道Ⅰ　　単位数　2　単位

対象学年組：第　１学年　１組～　７組

教科担当者：（１～７　組：田中:

使用教科書：（ 書１　光村図書　　）

教科　芸術科　　の目標：

【知識及び技能】書の知識を学び、書写の技能を向上させる

【思考力、判断力、表現力等】書の仕上がりのイメージを持ち、それを表現できるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】実技課題や鑑賞課題に取り組み、豊かな人間性を育んでいく。

科目　書道Ⅰ　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書能力を向上させ、用具用材の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。	生徒自ら書の良さや美しさを感じ、学び考える。そして書で表現する。	主体的に書に関心をもち、書の幅広い活動に取り組む力をつける。

と

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 漢仮	漢	・仮	鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	書写から芸術科書道への導入を図る。芸術としての書の表現に挑んだり、多彩な書の美に親しんだりする。	書写で学習した事を基盤にして芸術としての書の表現を学ぶ。		○		○	書写で学習した筆使い。　字形・文字の大きさ排列などが理解しているか、用具・用材が正しく扱えているか。	○	○	○	4
	漢字の書 １，はじめに 現存する最古の漢字は、紀元前１３００年頃の甲骨文です。時とともに多くの人々が文字を共有し、書きやすさや美しさが求められていく中で、様々な書体が生まれた事を理解	漢字の変遷と様々な書体（篆書・隷書・草書・行書・楷書）を学ぶ。		○		○	黄河文明の文字として生まれた漢字が時とともに様々な書体に変遷したことを理解することができたか。	○	○	○	2
	２，文字の造形に学ぶ。（楷書） 名手が書いた傑作で、長く楷書の規範として尊ばれてきました。それぞれの古典を通して楷書の基本を学ぶ。	『唐の四大家』にまなぶ。 それぞれの古典を通して楷書の基本を学ぶ。		○		○	長く楷書の表現の規範として尊ばれた古典を通して楷書の用筆や運筆を学ぶことができたか。	○	○	○	14
	鑑賞を始めよう。 古典の作品を鑑賞する。	・点画や用筆の特徴 ・字形の特徴 ・イメージ（風趣）などを鑑賞する。		○		○	造像記や磨崖の書や小楷などを鑑賞し、用筆や字形の特徴やイメージを感じる事ができたか。	○	○	○	2
2学期	2、文字の造形に学ぶ。（行書） 行書は、隷書の点画を簡略化し、速く書く中から生まれた書体である事を理解する。	書聖といわれる王羲之の「蘭亭序」を学ぶ。		○		○	行書の特徴である筆脈によって生み出される多様な字形・抑揚を利かせた用筆で臨書することができたか。	○	○	○	12
	２，文字の造形に学ぶ。（草書・隷書・篆書） 草書…丸みのある字形や、点画の省略・連続などを捉え、柔らかな用筆で書こう。 隷書…扁平な字形や蔵鋒の起筆から波たくに至る伸びやかな横画・右払いを捉え、ゆったりとした用筆で書こう。 篆書…縦長の字形や均一なふとさの	各書体の特徴や用筆を学ぶ。		○		○	草書・隷書・篆書それぞれの書体の成立や特徴を学ぶことができたか。	○	○	○	12
3学期	仮名の書 １、はじめに 仮名の成立と種類（万葉仮名・草仮名・女手・片仮名）	仮名の筆使いと平仮名・変体仮名いよる表現を学ぶ。 古筆を鑑賞する。			○	○	漢字の音を借りて日本語を表記したものが仮名であること。　仮名の種類や特徴を理解する事ができたか。	○	○	○	10
	漢字仮名交じりの書 １，はじめに 漢字と仮名で表記された語句や詩文を題材とした、「生きた言葉」を表現できる分野です ２，創作する。	これまでに学習したことを生かし、自分が表現したいイメージを作品にする。	○			○	これまで学習した漢字や仮名を使い、生きた言葉を表現することができたか。	○	○	○	6
											合計 62